

ようこそ！ にこにこクラブへ！

学校法人高槻双葉学園

【はじめに】

この手紙は、当学園のにこにこクラブでの保育における考え方を記述しているものとなります。少し長文になりますが、ぜひご確認の上、ご入会の検討をお願いいたします。

【「個から集団へ」…その第一歩となる場として】

3歳児から幼稚園・保育園・認定こども園など初めての集団生活となるケースが一定数あります。そのため2歳児クラスでは集団生活のひとつ前のステージというとらえ方もできます。

しかし、2歳児の発達段階は、「ひとり遊び」、「探索活動」などが豊かに展開される時期でもあります。そのため子どもたちに、「友達と協力してね」、「友達の気持ちになって考えてみて」など、他者を意識し行動するということは発達段階から見ても、まだまだ難しい年代となります。もしくは、友達と同じような遊びを近くでしていても、それぞれ独立して思い思いの遊びをしているという場面も珍しくはないと思います。

にこにこクラブでも、高槻双葉幼稚園でもそうですが、

「びしっとそろって」

「繰り返し正確にこなす」

「完璧にできるまでやる」

「完成度の高いものを」

ということを優先的に保育活動のねらいとして考えておりません。特にこの2歳という時期は、「子どもたちが探索活動を通して外界に出ていき、何か困ったこと、つらいことがあったときに、戻ってこることができる安全基地がきちんとあること」が大切な年代です。その不安な気持ちを大きく抱えている中で、「完璧を求める取り組むこと」は、この時期に必要な育ちではないと考えます。

初めは保護者の方と一緒に活動しますが、後半は子どもだけの時間になったときには、泣く子どももきつーと思います。またはじめは大丈夫でも、保護者の方の姿を思い出し、途中で泣いたり、「帰りたい」と言ったりする子どももいると思います。そのようなときは、ぜひ頑張った子どもたちを、家でプラスの方向に進めるように、そして背中を押す言葉をたくさんかけていただければと思います。そして、結果だけではなく、「育とうとしていること」、「やろうとした」子どもたちの過程に想いを馳せ、その過程に光を当てていただければと思います。

【子どもの育とうとする姿を知る場として】

初めて集団生活を過ごす中でよくこういったことを聞きます。

「おうちではできるんですけど、幼稚園(クラス)ではできないんですよね・・・」

家庭では保護者と子どもが1対1(ご兄弟がおられる場合は除く)で対応されていると思います。その際、子どもが発する「欲求」に対して、集団生活と比べると保護者の方がタイムリーに、そして個別のニーズに応じる形で、「応答」しやすい状況が生まれます。

しかし、集団生活では、「保育者1名に対し20名、30名という多くの子どもたち」という構図になります。そうすると、1つの欲求に対して応答をタイムリーに個別的にということが、できにくい状況になります。

このような状況の違いが「家ではできるんですが・・・」ということにつながると考えます。

にこにこクラブでは、前半は親子で、後半(時期は年度によって調整をしています)は子どもだけで、という保育の組み立て方をしていますが、その中できっと「あ、これは一人ではできなかったんだ」、「ここまで手を貸せばあとは自分でやろうとするんだ」、「今までできないと思っていたけど、子どもの育つ力ってすごいんだな」など、予期せぬ子どもの姿に出会う場面が多いと思います。

子どもたちにとって興味・関心は様々です。育つスピードも様々です。また4月生まれの2歳児と3月生まれの2歳児(いわゆる月齢差)の姿が違うことも乳幼児期はありえること、考えられることです。

「〇歳になると〇ができるようにならないといけない」というお話をよく耳にしますが、すべての子どもが確実に当てはまるわけではありませんし、当てはめるものでもないと考えます。もちろん「育っていく」、「できなかったことができるようになっていく」ことを目標におき、取り組んでいくことは大切です。しかし過度な焦り、また放任、子どもの自由気ままに、という極端なアプローチでは子どもが伸びやかに育っていきません。にこにこクラブの取り組みを通して、発達の道筋を知る、活動を通して子どもが一人で進もうとしている姿を知る、などのことを毎回の気づきとしていただければ幸いです。

【見えないものを育てる・育む(非認知的能力の育ち)】

「子どもたちがあんな難しい合奏をしていて感動した」、「暗唱をすらすらできるからすごい」、「英語が話せるようになったから育っている」といった思いをお持ちの方がおられると思います。

これは「見えやすい力・活動」と私たちは捉えています。この見えやすい力・活動は、子どもの「できた」、「わかった」が評価軸となることが多いため、判断がしやすかったり育ちが見えやすかったりします。しかし、このような力・活動での育ちを優先することは本来、乳幼児期で育みたい力・育ちとは異なります。

近年、乳幼児期の育ちとして注目されている育ちとして「非認知的能力」(≒社会情(緒)動的スキル)という言葉が挙げられます。これは、「忍耐力」、「社会性」、「感情のコントロール」など目には見えにくい育ちです。乳幼児期にこの非認知的能力を高める教育を受けると、大人になった際に社会的成功や健全な生活につながるという研究は大変有名な研究として言われています(J・ヘックマン教授の研究より)

私たちは保育活動を通じて、これらの育ちを遊びや生活経験を通して培えるように考え保育を行っています。また、平成30年度に改訂された「幼稚園教育要領」では次のように示されています。

《幼稚園教育において育みたい資質・能力》

- ① 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする**「知識及び技能の基礎」**
- ② 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする**「思考力・判断力・表現力等の基礎」**
- ③ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする**「学びに向かう力、人間性等」**

このように幼稚園教育要領では、何かを教え込んで理解させる、何かを学びその成果を形にするよう繰り返しできるまで行う、など指導内容を決めているものではありません。

一方で小学校に進学すると、「小学校学習指導要領」があり、そこには各学年のねらいや活動、指導内容などが明確に記されています。よって小学校では授業が存在すると考えられます。

幼児教育では、小学校教育のように明確に科目が分かれていたり、指導する内容・項目が決まっているものではありません。だからこそ、幼稚園によってさまざまな教育方針や保育内容が設定されることとなります。幼児教育は「環境を通しての保育」と表現されることもあります。豊かな環境、経験、実感を伴った気付きの中で、育ちや変容が見られます。また主体的に子どもが自ら遊びを選択し、没頭し、探求する。このような営みの延長線上に、小学校以降の学びが存在します。

幼児期の今だからこそ、豊かな遊び、生活、そして経験を通して自分たちのやってみたくらいにトライできることを保証することを幼稚園では大切にしたいと考えています。これは教え込みばかり行ったり、繰り返し正確にできるまでとことんやる、というスタイルでは達成できないものと考えています。

にこにこクラブは限られた時間での実施のため、「自由に」、「時間たっぷり」とはなかなかいきませんが、その限られた時間の中でも、子どもたちが選択したり思い思いの表現を大切にしたり、新たなことに興味・関心を持ったりするなどのことを大切にしていきたいと思います。

製作などの時間も予定していますが、ここでも「完成品を作ること」を主眼に置いて活動を組み立てていません。活動を通して子どもたちの見えにくい育ちに、思いをはせていただき、活動のねらいに注目して、各回の保育にご参加いただければ幸いです。

【子育てを通して親育ちをする視点から】

第1子の方は初めての集団生活の経験を子どもたちが迎えるということで、期待と不安の気持ちが入り交ざっておられることと思います。私たちは子育てを通して、保護者の方も保育者と一緒に成長していけたらと考えています。私たちはどんなときも「子どもが真ん中」に考えたいと思います。

子どもを真ん中に考える中で、保護者として子どもの育ちをいかに支えるか、保護者の方同士で子育ての想いを共有していただくなど、新たな仲間と出会っていただく場でもありたいと思います。前期は親子での活動となります。もちろんご自身のお子さまの様子を中心にみていただくことが多いと思いますが、ほかの子どもたちそして、保護者の方同士でクラス全体の子どもの育ちを共に分かち合い喜び合える時間となりますよう願っています。

【さいごに】

初めて経験すること、戸惑うこと、その中でも自分で状況を打破し前に進もうとする子どもの姿など、様々な場面をご覧になったりお感じになられたりすると思います。

子育ても保育も一人だけで行うより、子どもを取り巻く周りの大人や周囲の環境が一丸となり子どもたちに向き合うことが何より子育て環境には必要と考えます。

子どもたちが初めの一步を力強く踏み出せるよう、ぜひ園と家庭が一体となって、子どもたちのために取り組んでいければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。